

2. 火山の概況 (平成 15 年 5 月 22 日 ~ 平成 15 年 5 月 28 日)

十勝岳・浅間山では微動があった。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では中岳第一火口の温度に上昇傾向がみられた。桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島では噴火があった。

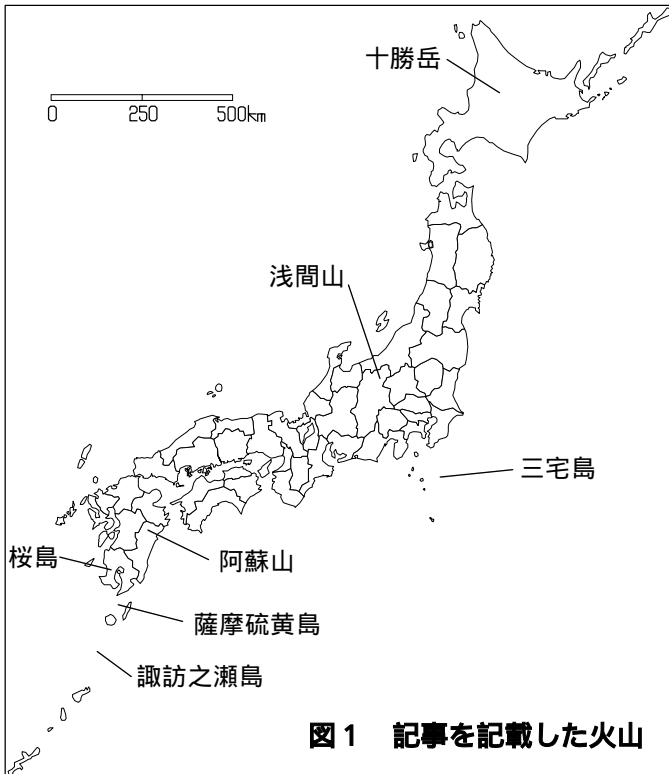


図1 記事を記載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	十勝岳	浅間山	御嶽山	三宅島	八丈島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
22	5/22- 5/28									
21	5/15- 5/21									
20	5/ 8- 5/14									
19	5/ 1- 5/ 7									
18	4/24- 4/30									

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

十勝岳 [微動]

24日13時57分頃から、継続時間が約4分間の微動(最大振幅0.09 μ m(マイクロメートル))が観測された(微動の発生は5月19日以来)。前回の微動と比較して、振幅は三分の二程度、継続時間は三分の一程度であった。

なお、微動の発生前後に地震の増加はなく、噴煙の状況にも特に異常な変化はなかった。

浅間山 [熱・微動]

22日に実施した山頂火口の観測では、火口底に2月6日以降のごく小規模噴火によりできたと考えられる新しい噴気孔が確認された。噴気孔内は赤熱状態にあり、赤外熱映像装置による観測では最高642と高い値が観測された。

期間中、振幅の小さい微動が9回発生した。このうち5回の微動は、2月6日以降のごく小規模な噴火に伴い発生した微動に類似していたが、火山灰を含む噴煙の噴出は確認されなかった。また、いずれの微動についても、噴煙、地殻変動等その他の観測データに変化はみられなかった。

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上400m(22日)であった。

地震回数は、1日当たり9~28回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる様子が今期間も引き続き観測された。

GPSによる地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

三宅島 [熱・噴煙]

27日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測¹⁾では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から北西へ流れていた。火口壁の崩落が進行しているのを確認したものの、山体の地形や火口の状況に大きな変化はなかった。赤外

熱映像装置による観測では、火口内の温度は、150 以上と依然高い状態が継続していたが、最高温度は視界不良のため測定できなかった（前回（5月21日）217 ）。

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上 1,000m（22日）であった（前期間 500m）。

規模の大きな低周波地震は発生しておらず、地震活動は平穏な状態であった。

GPS による地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

1) 警視庁の協力による

阿蘇山 [熱]

23日に実施した中岳第一火口の観測では、赤外放射温度計による南側火口壁の最高温度は506（前回（21日）530）と高い状態で推移している。火口内の湯だまりは、湯量の減少がみられるものの依然として全面が湯だまり¹⁾状態で、湯の色は緑色で濁りなどは見られなかったが、湯だまりの最高温度は70（前回（21日）70）で、平常時と比較して高くなっている。また、湯だまりの中央部付近に噴湯現象が確認され、続き、火口底に露出部分が見られるようになっている。浅部の熱的な活動がより高くなる傾向がみられる。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m（22、23、27日）で、大きな変化はなかった（前期間 500m）。

孤立型微動及び地震の発生回数は少ない状態が続いた（以上図2）。

- 1) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60 の緑色のお湯が溜まっている（湯だまり）。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴現象等が起り始めることが知られている。

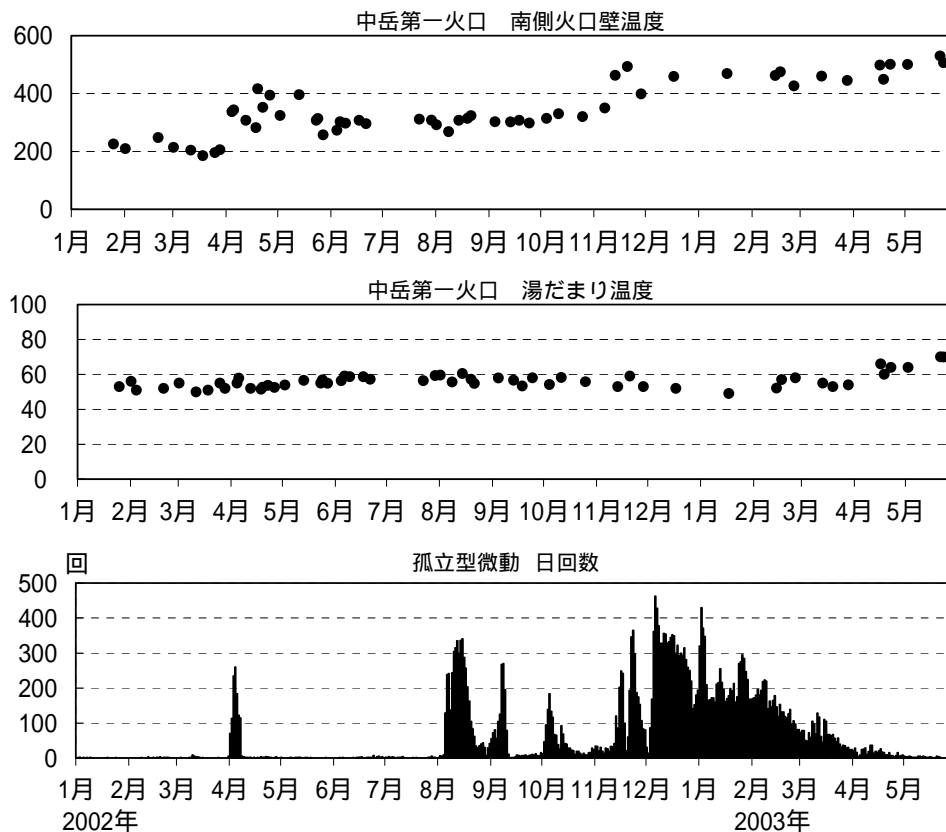


図2 阿蘇山 最近の火山活動経過図（2002年1月～2003年5月）

1995年3月の噴火以降、中岳第一火口内は湯だまり量が10割（全面湯だまり）となっており、浅部の熱活動は平衡状態を保っている。しかし、1998年頃より火口壁温度の上昇が続き、昨年は60弱でほぼ一定していた湯だまりの表面温度が今年の4月以降上昇傾向がみられるなど、徐々に不安定な状態になりつつある。

桜島 [噴煙]

期間中、2回の噴火があった（前期間はなし）。

噴煙高度の最高は、火口縁上1,200m（23日）であった（前期間500m）。

鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では降灰はなかった（前期間の降灰日数は1日間、降灰量は 1g/m^2 ）。

薩摩硫黄島 [降灰・微動]

三島村役場硫黄島出張所によると、島内の集落（硫黄岳の西約3km）では27日に火山灰を含む雨が降るのが確認された。

22～23日にかけて継続時間の長い微動が発生しており、火山活動はやや活発な状態となっている。

諏訪之瀬島 [噴煙・微動・地震]

今期間、爆発的噴火はなかった（前期間もなし）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約4km）では22日夕方から23日終日まで降灰があった。また、26日10時には、灰白色の噴煙が高さ300mまで上がるのが観測され、島内の集落で少量の降灰があった。

期間中、継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動はやや活発な状態となっている。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第280号 （1日2回発表）	22日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）
	火山観測情報第293号	28日 16:30	